

【令和7年】

(4) 日本大学共通項目について（項目 5,9～13）

以下は日本大学における全学的な共通設問項目となる。本設問項目では主として学生の学修時間の把握や学修傾向を測るための設問項目である。下表の上段が前期，下段が後期の回答結果となっている。

令和7年度 前学期 学生による授業評価アンケートに係る全学共通統一調査項目集計結果回答票

学部等名 芸術学部

NO.	設問	回答方式	平均値	回答率（％）					有効回答数	有効回答数（延べ数）
				5	4	3	2	1		
1	あなたは授業時間外の学修（予習・復習・課題等）をシラバス通りに実施されていたと思いますか。	択一	4.15	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	16454	
				35.21	49.09	12.05	2.39	1.26		
2	あなたはこの授業科目を1週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか。	択一	2.55	3時間以上	2～3時間	1～2時間	1時間未満	取り組んでいない	16454	
				10.63	8.92	24.16	37.61	18.68		
3	あなたはこの授業科目の内容に関して、授業時間外（授業終了直後を含む）に、担当教員に対し質問等をしましたか。	択一	3.15	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	16454	
				20.74	24.53	21.94	14.60	18.20		
4	あなたはこの授業科目の内容に関して、学生間で意見交換や議論はできましたか。	択一	3.75	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	16454	
				30.22	35.10	20.62	7.41	6.65		
5	あなたが提出した授業中の課題（レポート、小テスト等）に対し、担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか。	択一	3.93	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	16454	
				34.70	37.02	19.22	5.09	3.96		
6	あなたにとってこの授業内容は、総合的に評価して良い授業でしたか。	択一	4.28	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	16454	
				45.66	42.19	8.48	2.30	1.37		

令和7年度 後学期 学生による授業評価アンケートに係る全学共通統一調査項目集計結果回答票

学部等名 芸術学部

NO.	設問	回答方式	平均値	回答率（％）					有効回答数	有効回答数（延べ数）
				5	4	3	2	1		
1	あなたは授業時間外の学修（予習・復習・課題等）をシラバス通りに実施されていたと思いますか。	択一	4.18	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	12220	
				38.23	46.48	11.56	2.05	1.67		
2	あなたはこの授業科目を1週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか。	択一	2.65	3時間以上	2～3時間	1～2時間	1時間未満	取り組んでいない	12220	
				13.37	9.46	23.49	36.43	17.25		
3	あなたはこの授業科目の内容に関して、授業時間外（授業終了直後を含む）に、担当教員に対し質問等をしましたか。	択一	3.32	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	12220	
				24.03	27.01	21.00	13.18	14.77		
4	あなたはこの授業科目の内容に関して、学生間で意見交換や議論はできましたか。	択一	3.78	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	12220	
				32.66	34.18	18.93	7.04	7.19		
5	あなたが提出した授業中の課題（レポート、小テスト等）に対し、担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか。	択一	4.01	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	12220	
				38.63	36.37	16.10	4.66	4.22		
6	あなたにとってこの授業内容は、総合的に評価して良い授業でしたか。	択一	4.31	強くそう思う	そう思う	どちらとも思えない	そう思わない	全くそう思わない	12220	
				47.41	40.95	8.09	2.06	1.50		

この中でも特に特徴的な結果が表れた設問として、NO.2「この授業科目を1週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか。」が挙げられる。「1時間未満」及び「取り組んでいない」と回答した合計数値が、前回と比較すると、前期が約3％，後期が約1％下降しており、「3時間以上」，「2時間～3時間未満」，「1時間以上～2時間未満」が全体的に微上昇している。前後期ともに「1時間未満」が最多ではあるものの、学生が授業時間以外学修に取り組む時間が増加している傾向にある。この要因として、

講義科目は基より、演習、実習科目においてもシラバス上で時間外学修内容の具体的な明示がなされたことや、その重要性を学生に理解を促した上で、教員が積極的に課題等を課していることが考えられる。

また、設問 NO.4「この授業科目に関して、学生間で意見交換や議論ができましたか」に関しては、前期 66.32%、後期 66.84%の学生が＜そう思う、強くそう思う＞と回答している。前回前期が 64.35%、後期が 66.01%であったので、前期後期ともに約1～2%程度上昇している。学生はより主体的に授業に参加し、教員も授業内で学生間の意見交換や議論を行う機会を積極的に取り入れていることが読み取れる。併せて、連携型プロジェクト科目や芸術総合講座、他学科公開科目など、複数学科の学生が協力して1つの作品を制作することや社会課題の解決を目指す科目の履修機会が増加したことも要因の1つと考えられる。芸術学部では学年進行と共に実習科目が増加し、他者とのコミュニケーションの中で課題に取り組む場面が多いことから、引き続き学生に意見交換や議論の機会を提供できる授業設計を拡充する必要がある。

そして、設問 NO.6「あなたにとってこの授業内容は、総合的に評価して良い授業でしたか。」に関しては、＜そう思う、強くそう思う＞の合計が前期 87.85%、後期 88.36%と、前回と同様に約9割の学生が芸術学部の授業内容を総合的に評価して良い授業と捉えている結果が得られた。この結果に関しては、他の統計調査の類似設問、外部アセスメントテスト GPS・Academic 実施結果や卒業時調査（大学本部実施）などにおいても同様の傾向が出ており、他学部と比較しても経年で高い水準を維持し続けている。その一方で、授業評価アンケート結果に基づき、設定基準に達しなかった教員を対象に面談等により状況を確認し、改善を求め、口頭あるいはメール等により回答率の改善を促す取り組みを実施している。今後も教育活動の水準の維持又は向上を目指して取り組んでいく。

【令和6年】

(4) 日本大学共通項目について（項目 5,9～13）

以下は日本大学における全学的な共通設問項目となる。本設問項目では主として学生の学修時間の把握や学修傾向を測るための設問項目である。下表の上段が前期，下段が後期の回答結果となっている。

令和6年度 前学期 学生による授業評価アンケートに係る全学共通統一調査項目集計結果回答票										
学部等名 芸術学部										
NO.	設問	回答方式	平均値	回答率（％）					有効回答数	有効回答数（延べ数）
				5	4	3	2	1		
1	あなたは授業時間外の学修（予習・復習・課題等）をシラバス通りに実施されていたと思いますか。	択一	4.16	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15627	
				35.78	49.25	11.33	2.25	1.40		
2	あなたはこの授業科目を1週（回）受けるに当たり，授業時間以外で学修（予習，復習，課題等）にどのくらい取り組みましたか。	択一	2.47	3時間以上	2～3時間	1～2時間	1時間未満	取り組んでいない	15627	
				9.62	7.53	23.50	38.57	20.79		
3	あなたはこの授業科目の内容に関して，授業時間外（授業終了直後を含む）に，担当教員に対し質問等をしましたか。	択一	3.11	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15627	
				19.80	25.50	20.50	14.65	19.55		
4	あなたはこの授業科目の内容に関して，学生間で意見交換や議論はできましたか。	択一	3.70	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15627	
				28.98	35.37	20.12	7.48	8.04		
5	あなたが提出した授業中の課題（レポート，小テスト等）に対し，担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか。	択一	3.92	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15627	
				34.83	36.77	18.70	5.07	4.63		
6	あなたにとってこの授業内容は，総合的に評価して良い授業でしたか。	択一	4.29	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15627	
				45.15	43.29	8.23	2.16	1.18		

令和6年度 後学期 学生による授業評価アンケートに係る全学共通統一調査項目集計結果回答票										
学部等名 芸術学部										
NO.	設問	回答方式	平均値	回答率（％）					有効回答数	有効回答数（延べ数）
				5	4	3	2	1		
1	あなたは授業時間外の学修（予習・復習・課題等）をシラバス通りに実施されていたと思いますか。	択一	4.20	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	11155	
				38.71	47.24	10.74	1.93	1.38		
2	あなたはこの授業科目を1週（回）受けるに当たり，授業時間以外で学修（予習，復習，課題等）にどのくらい取り組みましたか。	択一	2.66	3時間以上	2～3時間	1～2時間	1時間未満	取り組んでいない	11155	
				14.37	8.58	22.99	36.37	17.69		
3	あなたはこの授業科目の内容に関して，授業時間外（授業終了直後を含む）に，担当教員に対し質問等をしましたか。	択一	3.31	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	11155	
				24.18	26.73	20.61	13.05	15.43		
4	あなたはこの授業科目の内容に関して，学生間で意見交換や議論はできましたか。	択一	3.76	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	11155	
				31.48	34.53	19.71	7.08	7.19		
5	あなたが提出した授業中の課題（レポート，小テスト等）に対し，担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか。	択一	4.01	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	11155	
				38.14	36.41	17.49	4.47	3.49		
6	あなたにとってこの授業内容は，総合的に評価して良い授業でしたか。	択一	4.32	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	11155	
				46.32	43.12	7.79	1.67	1.10		

設問 NO.1「授業時間外の学修（予習・復習・課題等）をシラバスどおり実施しましたか。」については本年度＜そう思う，強くそう思う＞と回答した割合が前期 85.03%，後期 85.95%と高い水準の回答を得ている。令和5年度との比較においても，前期 1.74%，後期 0.84%の肯定的上昇が見られた。令和6年度は令和5年度と比較して学生・教員間のコミュニケーションが積極的に行われたことに加え，学務委員会を中心に教員に対してシラバスの授業時間外学修に関して学生に具体的に明示するよう，作成要項で強調して依頼・作成したことも効果が表れた

一因と考えられる。今後も学務委員会を中心に、教員が「何をどのように教えるのか」、学生が「何をどう学ぶのか」が明確に伝わる授業計画の策定に務めていく。設問 NO.2「この授業科目を1週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか。」に関しては、前期、後期共に「1時間未満」が最多で、次いで「1～2時間」が回答として多かった。一見時間数としては少ないように見受けられるが、後期に関しては14.37%の学生が3時間以上の授業外での学修を行っている。芸術学部の学生は創作活動と授業の境が少ない側面もあり、一概に授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）時間が少ないとは言いきれない実態も存在するため、講義科目は基より、演習、実習科目においてもシラバス上で時間外学習内容の具体的な明示を進めていく。設問 NO.3「この授業科目の内容に関して、担当教員に対し質問等をしましたか。」については、前期 45.3%、後期 50.91%と約半数の学生が＜そう思う、強くそう思う＞と回答している。令和5年度が前期は 49.35%、後期が 55.59%であり、令和6年度は前後期ともに下降傾向にある。その要因の1つとして、対面型の授業の回帰により、これまでオンライン型の授業を中心に教員と学生が課題提出や質問等のコミュニケーションを取るツールとしても活用されていた「Google Classroom」の使用が相対的に減少したことが考えられる。「Google Classroom」にてコメントで質問等をしていた状況から、対面で教員に直接する必要が出てきたことで、質疑の機会が減少したことも考えられ、今後改善策を練る必要がある。設問 NO.4「この授業科目に関して、学生間で意見交換や議論ができましたか」に関しては、前期 64.36%、後期 66.02%の学生が＜そう思う、強くそう思う＞と回答している。令和5年度が前期 62.82%、後期 65.12%であったことを鑑みると、学生はより主体的に授業に参加できており、教員も授業内で学生間の意見交換や議論を行う機会を積極的に取り入れていることが読み取れる。併せて、連携型プロジェクト科目や芸術総合講座など、複数学科の学生が協力して1つの作品を制作することや社会課題の解決を目指す科目の履修機会が増加したことも要因の1つと考えられる。芸術学部では学年進行と共に実習科目が増加し、他者とのコミュニケーションの中で課題に取り組む場面が多いことから、引き続き学生に意見交換や議論の機会を提供できる授業設計を拡充する必要がある。設問 NO.5「授業中の課題（レポート、小テスト等）に対する、担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか。」に関しては、＜そう思う、強くそう思う＞の回答が後期 74.55%と令和5年度後期と同水準だったが、前期 71.60%で令和5年度前期より 3.18%上昇した。学部としても、リアクションペーパーの活用を中心に学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）に力を入れて取り組むよう、各教員に広く推奨しており、こうした取り組みの結果が表れているといえる。設問 NO.6「あなたにとってこの授業内容は、総合的に評価して良い授業でしたか。」に関しては、＜そう思う、強くそう思う＞の合計が前期 88.44%、後期 89.44%と、令和5年度前期 85.79%、後期 88.31%と経年で圧倒的な学生評価を得ている。この結果に関しては、他の統計調査の類似設問、外部アセスメントテスト GPS-Academic 実施結果や卒業時調査（大学本部実施）などにおいても同様の傾向が出ており、他学部と比較しても経年で高い水準を維持し続けている。その一方で、授業評価アンケート結果に基づき、設定基準に達しなかった教員を対象に面談等により状況を確認し、改善を求め、口頭あるいはメール等により回答率の改善を促す取り組みを実施しており、教育活動の水準の維持に務めている。

【令和5年】

(4) 日本大学共通項目について（項目 5,9～13）

以下は日本大学における全学的な共通設問項目となる。本設問項目では主として学生の学修時間の把握や学修傾向を測るための設問項目である。下表の上段が前期、下段が後期の回答結果となっている。

令和5年度 前学期 学生による授業評価アンケートに係る全学共通統一調査項目集計結果回答票

学部等名 芸術学部

NO.	設問	回答方式	平均値	回答率（％）					有効回答数	有効回答数 (延べ数)
				5	4	3	2	1		
1	あなたは授業時間外の学修（予習・復習・課題等）をシラバス通りに実施されていたと思いますか。	択一	4.12	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15946	
				33.58	49.71	13.01	2.37	1.33		
2	あなたはこの授業科目を1週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか。	択一	2.47	3時間以上	2～3時間	1～2時間	1時間未満	取り組んでいない	15946	
				9.16	8.13	24.29	37.20	21.22		
3	あなたはこの授業科目の内容に関して、担当教員に対し質問等をしましたか。	択一	3.29	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15946	
				20.85	28.50	23.18	13.90	13.56		
4	あなたはこの授業科目の内容に関して、学生間で意見交換や議論はできましたか。	択一	3.69	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15946	
				28.03	34.79	22.43	7.39	7.36		
5	あなたが提出した授業中の課題（レポート、小テスト等）に対し、担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか。	択一	3.86	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15946	
				30.92	37.50	22.04	5.63	3.91		
6	あなたにとってこの授業内容は、総合的に評価して良い授業でしたか。	択一	4.23	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	15946	
				42.22	43.57	10.22	2.50	1.49		

令和5年度 後学期 学生による授業評価アンケートに係る全学共通統一調査項目集計結果回答票

学部等名 芸術学部

NO.	設問	回答方式	平均値	回答率（％）					有効回答数	有効回答数 (延べ数)
				5	4	3	2	1		
1	あなたは授業時間外の学修（予習・復習・課題等）をシラバス通りに実施されていたと思いますか。	択一	4.18	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	12846	
				37.44	47.67	11.79	2.00	1.10		
2	あなたはこの授業科目を1週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修（予習、復習、課題等）にどのくらい取り組みましたか。	択一	2.67	3時間以上	2～3時間	1～2時間	1時間未満	取り組んでいない	12846	
				13.86	9.42	23.38	36.10	17.25		
3	あなたはこの授業科目の内容に関して、担当教員に対し質問等をしましたか。	択一	3.47	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	12846	
				25.79	29.80	21.56	11.54	11.31		
4	あなたはこの授業科目の内容に関して、学生間で意見交換や議論はできましたか。	択一	3.75	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	12846	
				31.12	34.00	20.74	7.09	7.04		
5	あなたが提出した授業中の課題（レポート、小テスト等）に対し、担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか。	択一	4.01	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	12846	
				38.25	36.74	16.49	4.87	3.66		
6	あなたにとってこの授業内容は、総合的に評価して良い授業でしたか。	択一	4.30	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	12846	
				45.85	42.46	8.52	1.88	1.28		

設問 NO.1「授業時間外の学修（予習・復習・課題等）をシラバスどおり実施しましたか。」については本年度＜そう思う，強くそう思う＞と回答した割合が前期 83.29%，後期 85.11%と高い水準の回答を得ている。令和 4 年度の類似設問との比較においても，前期 11.86%，後期 7.72%の肯定的上昇が見られた。令和 5 年度は令和 4 年度と比較して対面での授業が増えたことで，学生・教員間のコミュニケーションが適切に計られたことも，時間外の学修が充分確保された要因と捉えられる。特に芸術学部では創作活動が学修と密接であるため，総じて事前・事後学習に充てる時間は長い。創作系科目だけでなく専門及び教養系の講義系科目に関しても，シラバスを通じ具体的な指示が記載されることで，更なる単位の実質化を図ることが肝要である。設問 NO.2「この授業科目を 1 週（回）受けるに当たり，授業時間以外で学修（予習，復習，課題等）にどのくらい取り組みましたか。」に関しては，前期，後期共に「1 時間未満」が最多で，次いで「1～2 時間」が回答として多かった。一見時間数としては少ないように見受けられるが，後期に関しては 13.86%の学生が 3 時間以上の授業外での学修を行っている。芸術学部の学生は創作活動と授業の境が少ない側面もあり，一概に授業時間以外で学修（予習，復習，課題等）時間が少ないとは言いきれない実態も存在するため，シラバス上で時間外学習内容の具体的な明示が必要と捉えられる。設問 NO.3「この授業科目の内容に関して，担当教員に対し質問等を行いましたか。」については，前期 49.35%，後期 55.59%と約半数の学生が＜そう思う，強くそう思う＞と回答している。昨年度が前期は 37.51%，後期が 41.3%であったことを鑑みると，対面型の授業の増加や効果的なオンライン学修の浸透により，学生から教員に対するアプローチが効果的に上昇していることも読み取れる。設問 NO.4「この授業科目に関して，学生間で意見交換や議論ができましたか」に関しては，＜そう思う，強くそう思う＞が前期 62.82%，後期 65.12%と，こちらも半数の学生がアクティブな授業参加であったことを回答している。芸術学部では学年進行と共に実習科目が増加し，他者とのコミュニケーションの中で課題に取り組む場面が多いことから，引き続き学生に意見交換の機会を提供できる授業設計を拡充する必要がある。設問 NO.5「授業中の課題（レポート，小テスト等）に対する，担当教員から学生へのフィードバック（評価や講評等の開示）はありましたか。」に関しては，前期 68.42%後期 74.99%と＜そう思う，強くそう思う＞の回答が昨年度と同水準で高かった。芸術学部では本年度より授業毎でのリアクションペーパーの活用を強く推進しており，こうした取り組みの結果が出ている。設問 NO.6「あなたにとってこの授業内容は，総合的に評価して良い授業でしたか。」に関しては，＜そう思う，強くそう思う＞の合計が前期 85.79%，後期 88.31%と，昨年度前期 86.16%，後期 86.15%と経年で圧倒的な学生評価を得ている。この結果に関しては，他の統計調査の類似設問，外部アセスメントテスト GPS-Academic 実施結果や卒業時調査（大学本部実施）などにおいても同様の傾向が出ており，他学部と比較しても経年で高い水準を維持し続けている。この項目からも，入学段階から AP に基づく適切な入学者確保が出来ており，入学後の教育内容，学修指導が学生の高い満足度を得ていることが読み取れる。また，その水準を保つための教職員の改善に向けた努力の結実とも言える。